くみあいだより

JAなんぽろ

No.559

12

2023

JAなんぽろホームページアドレス　http://www.ja-nanporo.or.jp

南幌町農業協同組合

営農振興組合長会研修会開催

11月14日（火）、第7回営農振興組合長会議終了後に営農振興組合長会研修会を開催しました。

研修会は20名が参加し、北広島市のエスコンフィールド北海道を訪れ、施設内の見学ツアーに参加しました。

ツアーでは普段、野球観戦では見ることが出来ない選手控室やブルペン等を見てまわりました。

参加者からは、「観戦で何度かエスコンに来たことがあったが、今回のツアーでは普段見られない場所を見学できて良かった」との声が聞こえました。

研修会後には慰労会が行われ、近況報告や本年の作柄についての情報交換などでおおいに盛り上がりました。

秋の廃農ポリ・ビニール回収実施

11月15日(水)、ライスターミナルで廃農ポリ・ビニール回収が行われました。

当日は、役場産業振興課職員、ＪＡ資材課職員で荷降ろしや積込み、車両の誘導等を行いました。

受入れは、午前と午後で地区割を実施し、組合員の皆様の協力もありスムーズに搬入作業を行うことができました。

大勢の組合員が搬入を行い、のべ１４５台のトラックがライスターミナルに訪れ、回収された廃棄物は約30ｔとなりました。

豊穣の秋を迎え

11月16日（木）、南幌神社で収穫感謝祭が行われ、林代表理事組合長をはじめ、役員や青年部長、女性部長、各部署の部・室・次長職が参加しました。

今年は、猛暑と雨の影響もあり苦労しましたが、無事に豊穣の秋が迎えられ、感謝の気持ちを込めて玉串奉奠を行いました。

来年も今年以上の豊穣の秋を迎えられるように、また、組合員、ＪＡ職員等の無病息災を祈願して、お祓いをしていただきました。

青年部だより

発行者
JAなんぽろ青年部
編集責任者　奈良岡凌平

なんぽろ農作物のポスターコンクールを開催

青年部食育班では、食育食農事業として、南幌小学校5年生を対象になんぽろ農業ポスターコンクールを開催しました。

今年は「なんぽろでとれる好きな食べ物！」と題して南幌小学校5年生にポスターの製作を依頼し、南幌町で採れる好きな野菜を描いてもらいました。

第一次選考は、10月20日（金）の食育班会議で6点選考し、その中から、例会時に金・銀・銅賞を選考しました。選考に参加した盟友らは、「どの絵も丁寧に描かれていて選ぶのが大変だった」という声が上がるなど、真剣に選考していました。

後日、南幌小学校に報告を行い、入賞者には、南幌町特産品の詰め合わせセット、コンクールに参加して頂いた児童には参加賞としてなんぽろピュアライスななつぼし2合を贈呈しました。

青年部研修会で経営について学ぶ

10月23日（月）、JA2階中会議室で金融部経営相談課主催の青年部研修会を行いました。

研修会では、「個人経営と法人経営」のテーマのもと、西村係長（金融部・金融課）、飛内係長（金融部・共済課）、石橋係長（金融部・経営相談課）、吉田係（営農部・農業振興課）の4名より説明が行われました。

研修では他にも、農業者年金や年金共済、退職金共済制度についても説明があり大変充実した内容となっていました。

研修に参加した盟友からは、「あまり経営についての知識のない盟友でもわかりやすく学べる内容で勉強になった」との声がありました。

JA青年部では、今後も盟友一人ひとりが今後の農業情勢に目を向けられる様な活動や研修を行っていきます。

スポーツで他単組と親睦を深める

10月25日（水）、栗沢B&G海洋センターにて、空知南部ブロック8単組の青年部によるミニバレーボール大会が開催されました。

当JAからは、盟友とJA職員合わせて9名が参加しました。

各コートで熱戦が繰り広げられるなか、南幌チームもおおいに奮戦し、結果は下位トーナメント1位となりました。

参加した盟友からは、「普段あまり交流しないJAの職員や近隣単組の盟友らとミニバレーボールを通して楽しくコミュニケーションがとれ、とても良い大会であった」との声がありました。

大会終了後には、岩見沢市のホテルで懇親会が行われ、単組や役職の枠を超えて親睦を深めました。

青年部だより

発行者
JAなんぽろ青年部
編集責任者　奈良岡凌平

空知南部ブロック青年部大会に参加

10月31日（火）、岩見沢市の空知農業会館で開催された空知農協青年部南部ブロック青年部大会に、青年部役員3名と盟友1名が参加しました。

大会では、南部ブロックを代表して空知大会で発表を行う当青年部とJAみねのぶ青年部による「青年の主張」、JAびばい青年部とJAそらち南青年部による「動画で発信！農の魅力」の発表が行われました。青年の主張発表を行った増田氏は、「空知大会に向けて良い発表が出来たが改善点も見つかったので本番に向けて修正したい」と述べ、決意を新たにしていました。

各発表後には、三笠市地域おこし協力隊の千葉ひろみ氏による講演会も行われました。

大会終了後には、岩見沢市のホテルで懇親会が行われ、単組間の情報交換を行うなど、空知大会へ向けよい大会となりました。

未来の農業者と意見交換

11月10日（金）、岩見沢市の北海道岩見沢農業高等学校で開催された空知農協青年部南部ブロックと岩見沢農業高等学校との意見交換会に、青年部役員3名が参加しました。

意見交換会は、20名の高校生と27名の南部ブロック青年部盟友が参加し総勢47名で行われました。

意見交換に先立ち、岩村議長がパワーポイントを活用し生徒達へ青年部の活動について説明し、その後、高校生による「うまい米はデジタルでつくる!?稲作と農業DXの融合」と題した実績発表がありました。実績発表は、現役農家も驚くほど先進的な内容でした。

意見交換会では、日々の営農の話題等で各班おおいに活気づいていました。

参加した高校生と南部ブロック青年部盟友は互いに良い刺激を受けていました。

女性部短信

歴代部長会に参加

11月1日（水）、南空知の各JA女性部長と歴代部長が交流を深めることを目的に、JA女性部長並びに歴代部長会が夕張市で開催され、当JAから5名の女性部員が出席しました。

昼食をとりながらの情報交換や、昼食後には、参加者一人ひとりが自己紹介をして交流を深め、お楽しみのアトラクションでは、夕張メロンについてのDVDを鑑賞しました。

会の終わりには、来年度の担当となる当女性部の林部長より挨拶がありました。

短い時間の中でたくさんの方と親睦を深めることができました。

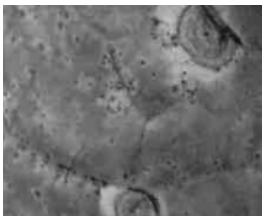
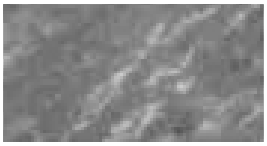
長船技師による営農情報！

令和５年野菜栽培を振り返って

本年の気象経過を振り返ると記録的な猛暑と雨の影響を多く受けた年だと思います。この影響で、病害虫の多発や生理障害の発生で作物の管理作業や収穫作業に大変苦労の多い年だったと思います。今月は本年の反省点と来年に向けての対策をお話します。

1　病害虫発生と高温障害

表1　令和５年発生状況

作　物	病害虫･高温障害	発生要因	症　状
ブロッコリー	黒すす病	･7月下旬～9月作型に発生が多くなりました。 ･葉と花蕾で発生し、はじめ黒色の小斑点が生じ、のちに病斑が拡大して黒褐色の斑点となる。病斑部は黒かびが密生し、感染すると花蕾･葉が腐敗します。 ･発病適温が２０～２５℃、降雨と強風により発病が多くなります。病原菌は被害植物に生存し、胞子で空気伝染します。	 葉の輪紋症状
長ネギ キャベツ たまねぎ ピーマン	ネギアザミウマ	･本年は高温･少雨の干ばつで、6月上旬～9月まで多発した。 ･年に１０世代以上を繰り返す。夏では2～3週間で1世代が完結します。 ･ネギアザミウマの食痕に病原菌が侵入し、黒斑病や軟腐病が発生します。	 成幼虫が葉に加害
ピーマン	ダニ	･高温で晴天日数が多く乾燥した7月上旬より多く見られた。ダニの侵入は圃場やハウス周辺や入口付近に見られました。 ･ダニの発育適温は２０～２８℃。２５℃では卵期間は約４日、幼虫から成虫になるまでの期間は約5日、1雌当たり１００～１５０卵を産みます。	 葉脈間が黄化
	日焼け果	･ハウスの定植後温度管理は午前中は２１～３０℃、午後２１～２６℃ですが、本年は記録的な猛暑の影響で日焼け果の発生が多くなった。 ･天井の低いハウスや換気が十分出来ないハウスや遮光期間が短いハウスで被害が見られた。	 果実表面が焼け
キャベツ	石灰欠乏症	･土壌が乾燥気味のときや土壌中の石灰含量が不足している場合に発生しやすい。 ･高温、多肥条件下で生育が旺盛となりカルシウムの吸収が間に合わない時に発生しやすい。	 中心葉の生育阻害

2　次年度に向けて

最近は異常な高温や低温、突発的な豪雨や局地的な大雨などの気象変動が激しくなってきていますので気象変動に負けない安定生産および産地として供給の安定性と継続性が求められます。

（１）ハウス施設における遮光資材や遮熱資材の活用

（２）循環扇や天窓、自動換気装置の設置

（３）突発的な豪雨や局所的な大雨に備えた簡易明渠の施工など、作物生育に好適な環境を維持するために総合的な対策を検討及び実施します。

（４）アザミウマやハダニ対策として、ほ場周辺の雑草除去やハウス栽培では防虫ネットの設置で害虫侵入を防ぎます。ハウスや圃場周辺に粘着版を設置し、発生予察を行い適期防除に努めます。

（５）薬剤防除は耐性菌の発生や抵抗性害虫が認められているので、異なる系統でローテション防除を行います。

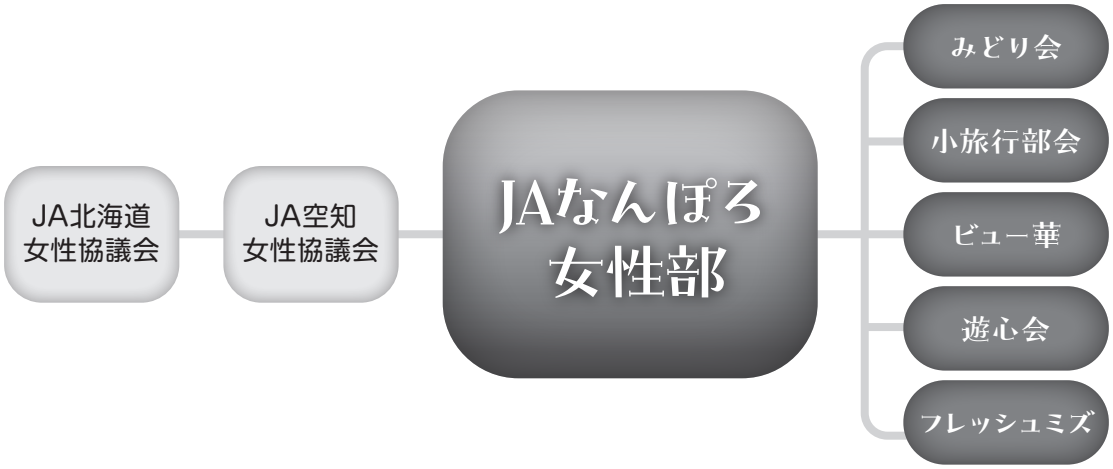
（６）石灰欠乏症対策としては発生が見られる場合、石灰質資材の葉面散布を４～５日間隔で実施します。

✿ 特集 JAなんぽろ女性部 ✿

JAなんぽろ女性部が来年で創立７０周年をむかえることから、今月・来月号の２か月間女性部活動を紹介したいと思います。

～JAなんぽろ女性部とは～

部員相互が協力して、農業経営に参画することを第一におき、農村生活の改善と教養と親睦を高め、併せて地域の活性化と南幌町農業協同組合の健全な発展に寄与することを目的とした組織です。女性部の地域は、南幌町農業協同組合の地域とし、地区内に住所を有し、南幌町農業協同組合の正組合員及び組合員の家族を部員としています。但し、准組合員（元正組合員）の家族も参加可能であり、部員資格に年齢制限はありません。



～部会等について～

JAなんぽろ女性部の中には、４つの部会とフレッシュミズという組織があります。女性部としての活動は無論のこと、部会員として活動している女性部員もいます。

○みどり会
南幌温泉に隣接した南幌町産野菜の直売所を運営しています。

○小旅行部会
さまざまな地域に赴きその土地ならではの歴史や文化に触れながら、温泉等への一泊旅行や芸術・文化鑑賞などの活動をしています。

○ビュー華
クラフトバックの作成、着付けや手芸教室等様々な研修などの活動をしています。

○遊心会
今年度新たに発足した部会であり、健康を保つための体力づくりや物づくりを通した交流等を予定しております。

○フレッシュミズ
農業後継者パートナーである若い農家女性の情報交換・ネットワークづくりの場を設けることを目的に、視察研修や交流会を行っています。

～１年間のスケジュール～

ここで１年間のおおまかな活動スケジュールをご紹介します。

2月　女性部大会

フレッシュミズ交流会

6月　部員視察研修

7月　JA空知女性協議会アグリセミナー

11月　JA北海道女性大会・北海道家の光大会

女性部懇談会

エーコープ酢料理講習会

フレッシュミズ視察研修

12月　JA役員との交流会

空知管内JA女性部研修大会・家の光大会

1月　小学校への食育活動

以上、第一弾の特集を終了します。女性部員どなたでもご参加いただける活動ばかりです。次回、１月号では詳しい活動内容や各部会での活動について、ご紹介したいと思います。お楽しみに♪

女性部の活動に興味のある方、参加したい方は下記までご連絡下さい。
TEL011-378-2278　FAX011-378-0846（営農部 農業振興課 事務局 香川・吉田）

理事会報告

11月16日

11月定例理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【議　案】

1. 共同計算精算方針の設定について
2. 資産査定要領の改正について

【報告事項】

1. 第7回 営農振興組合長会議の開催結果について
2. エーコープなんぽろ店 上半期の運営状況について
3. 令和5年度 南幌町穀類乾燥調製貯蔵施設の水稲操業状況について
4. 令和4年産 共同計算の精算結果について
5. 10月末　農産物の保管状況について
6. 10月末　蔬菜販売状況について
7. 定款第54条第3項の規定による利益相反取引について
8. マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策に関するアンケートについて
9. 10月期 JAローンの貸付について
10. 内部監査の実施報告について
11. 固定資産の賃貸について
12. 令和5年度 負担金の支出について
13. 要領の改正について
14. 令和5年12月から令和6年4月までの主要日程について
15. マネー・ローンダリング等および反社会的勢力との取引排除に係る対応状況について
16. ヘルプラインの運用実績について
17. 10月末財務状況について

表紙の紹介

◎今月号は、収穫感謝祭参列者に表紙を飾っていただきました。

南幌町 フォトコーナー

▲11月15日(水)に令和6年産秋小麦の越冬前調査を行いました。

編集後記

11月に26歳の誕生日を迎えた吉田です。昨年からアラサーの仲間入りしたのですが、このままだとあっという間に30歳になってしまいそうです。30歳になるまでに何か目標を立てたいなぁなんて考える今日この頃です。

くみあいだより担当の吉田は、職員組合の行事に参加しアスレチックをしてきました。

私達のJA

令和5年10月末日現在

組合員	2,664名	
（前年同期比	▲32名）	
正組合員	430名	
（前年同期比	▲16名）	
准組合員	2,234名	
（前年同期比	▲16名）	
正組合員戸数	271戸	
（前年同期比	▲9戸）	

発行　JAなんぽろ　〒069−0293　空知郡南幌町栄町1丁目4番7号
TEL 011−378−2221(代表)、011−378−2274(直通)　FAX 011−378−0846　発行日　令和5年12月1日　企画・編集　営農部農業振興課　印刷　(株)トリムシステム
ホームページ　http://www.ja-nanporo.or.jp　メールアドレス　koho @ ja-nanporo.or.jp